

共立女子大学文芸学部報

共立女子大学文芸学部報
第130号
発行日 2018年11月27日
編集・発行 共立女子大学
文芸学部
〒101-8437
東京都千代田区
一ツ橋2-2-1
発行責任者 山本聡美
創刊 1968年12月
題字 遠藤慎吾
第二代文芸学部長

学部報に関するご意見・感想を以下のメールアドレスまでお寄せください。
gakubuho@kyoritsu-wu.ac.jp

学部報は共立女子大学公式HPの「文芸学部」のコーナーでもお読みいただけます。
http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/

第130号 主目次

第1面	トップエッセイ 美の旅 大学随想 学部報の半世紀
第2面	特集 「創刊50周年」 卒業生コラム
第3面	心象点描
第4面	各セクションから

(今号の一言)
「学部報は学生に読まれなければ意味がない。そして、授業の場での話し合い材料を提供するようなものであってほしい。」 (入江和生)

大学随想

身内の話で恐縮ですが、妹一家が浅草のビル二階で喫茶店を営んでいます。「銀座ブラジル浅草店」といい、初めて聞くと、どこに店があるのか一瞬分からなくなるような名前です。おまけに階下には「シカゴ」という靴屋もあり、ややこしさに拍車をかけています。そんな妹の店からほど近い所に「ペーカリー・アオリン」があります。食パンのような日常的なパンと並んで世界各地のパンが充実していることで知られ、フランスのプレッツェル、スペインのボカディージョ、イタリアのフォカッチャ、韓国のスルパン、ロシアのピロシキ、中東のピタパンなどをいつでも味わうことができます。お店のご主人は田さんという方ですが、パン屋に似合わず海老の天ぷらが好物で、誰彼かまわずエビ天を勧めるので、周囲からは親しみをこめて「エビデンさん」と呼ばれています。

Bila jednom jedna zemlja.

奥彩子

むかしひとつの国がありました。

エミール・クストゥリツァ監督の映画『アンダーグラウンド』(一九九五)は、こんな言葉と強烈な音楽で始まる。「ひとつの国」とはユーゴスラヴィア。制作時には、なくなりつつあり、今ももうない国である。

きた。私が高校生のときだった。ユーゴ文学研究に迷い込んだのは(日本で三人目らしい)、大学入学年にスラヴ学が新設されたという偶然もさりながら、国家解体の悲惨さではなく、統一国家時代の多様性に心を惹かれたからだった。

と、歴史、文化、自然の違いに目を丸くせずにはいられない。アドリア海沿岸は風光明媚な地である。アドリア海の真珠と呼ばれるドゥブロヴニク(クロアチア)をはじめ、ローマ時代の遺跡都市スプリト(クロアチア)、ヴェネツィアの建設によるコトル(モンテネグロ)など世界遺産がひしめく。一方、内陸部ではドリナ川がサヴァ川に、サヴァ川がドナウ川に流れこむ。その合流地点に位置するベオグラード(セルビア)は「白い街」を意味する。水面の反射で輝いて見える要塞が名前の由来だ。南方に目を転じれば、オフリド(マケドニア)は湖畔に正教会群がたえず、数々のフレスコ画が見られる。「ローマの休日」

のアン王女の逆ではないが、どの街もそれぞれに美しい。憎悪の地 ユーゴスラヴィアの多様性の縮図が、ボスニア・ヘルツェゴヴィナである。首都サラエヴォは、山に囲まれた盆地で、街の真ん中には小川が流れる。旧市街にはモスク、シナゴーク、正教会、カトリック教会がひしめき、民族共存を象徴していた。しかし、ボスニア生まれのノーベル賞作家アンドリッチは、短篇「一九二〇年の手紙」(一九四六)の登場人物に次のように語らせている。

「然り、ボスニアは憎悪の地です。それがボスニアです。(中略)サラエヴォで床について眠られぬ夜を過ごす者は、サラエヴォの夜を聞くことができます。重々しく確信をもって、カトリック大聖堂の時計が夜中の二時を打つ。一分以上も過ぎて(中略)ようやく、少し弱弱しい、だが胸に響く音で、正教会の時計が自分の夜二時を打



多様性は遠い国の話ではなく、難局に直面した時こそ憎悪ではなく希望がともみあってほしい。学生の皆さんには、自分と違う事物に、まずは関心を持ち、知ってほしいと思う。

(准教授・文芸教養)

学部報の半世紀

文芸学部長 山本聡美

二〇一八年秋、千葉市美術館で一九六八年のアートシーンを主題にした展覧会が開催されている。戦後の復興と経済成長を遂げた五十年前の日本で、米国の現代美術からの影響を十分に咀嚼した世代による、学生運動やヒッピームーブメントとも連動した熱い芸術の時代があった。その後、社会はどのような変化を遂げたのか。一九六八年から何が継承され、歴史の中に埋没してしまったものは何か。時代の大きな潮流を把握する際に、半世紀というスパンで文学

や芸術に刻まれた変化を追うことは重要である。古代から中世へと転換する平安から鎌倉時代を例にとると、十二世紀前半は、平安貴族文化の爛熟を示す院政期、十二世紀後半は保元・平治の乱(一一五六、一一五九年)の勃発による平氏政権の樹立へと向かう混乱期となる。前半には白河上皇(一〇五三〜一一二九)、後半には孫の後白河上皇(一一二七〜一二二二)という巨星が現れ、文学・芸術の世界を領導した。両者の美意識は異なる。白河

が、「三十六人集」や「源氏物語絵巻」のような、和歌や物語に根差した繊細で高密度の美を好んだのに対し、後白河は流行歌謡である今様に傾倒するともに、絵画では「後三年合戦絵巻」や「地獄草紙」「餓鬼草紙」「病草紙」等、苦しみ多き世界の全貌を可視化しようとした。文芸には、時代の変化が鮮やかに刻まれる。

「共立女子大学文芸学部報」五十年の足跡をひもとくとき、そこに立ち現れる時代相を知ることが、転換期を迎えるこの学部の未来像を模索する私たちにとても大切な道しるべとなるだろう。

まもなく東京にオリンピックがやってくるというこの時期に、お店から国際色が薄れてしまうのはもったいない気がしますが、時勢におもねらないという点では立派な態度と言えるかもしれません。

(國分建志・教授・文芸教養)

美の旅

須田 基揮

カンディンスキー、モンドリアンを先駆として、絵画が抽象に達して以来100年余り。抽象絵画誕生までの道筋を遡ってみれば、再現性から離れ自律的絵画へと向かう、20世紀の絵画革命の礎となった印象派に辿り着く。

19世紀末から20世紀を経て21世紀初頭の今。芸術の概念は一変したが、抽象絵画を志す画家の端くれには、モネやセザンヌの試みを偉大とし、印象派が遠い遠い遙かな故郷のように思えてくるのだ。



須田基揮
「森羅万象 170727-c」
(和紙に顔料、アクリルエマルジョン、2017年)

学部報創刊50周年に寄せて

入江和生

私は文芸学部報が創刊された年の翌年に共立に奉職した。その年は全国的な学園紛争のさなかで、共立は比較的穏やかなが、それでも何もなくたただけではない。その状況を憂えた文芸学部の先生方が教員と学生とのあいだにコミュニケーションのパイプを通すために学部報を創刊したのだという説明を前任の私に受けた。学園紛争の混乱を味わってきた私は大いに納得した。

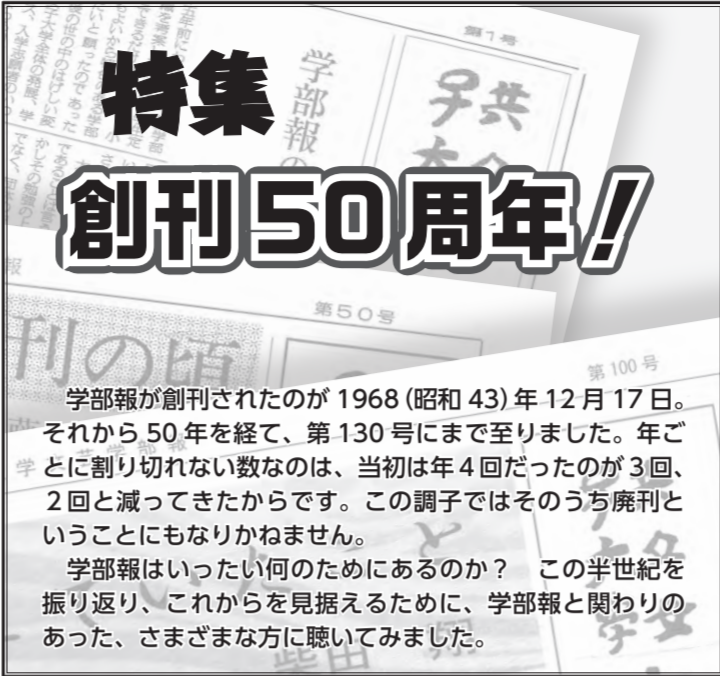
あれから50年たったが、学部報の存在意義は当時よりも弱まるどころか、はるかに強まっているように思われる。なぜなら学生とのあいだのコミュニケーションの必要性が50年前よりも今の方がはるかに高くなっているからである。

50年前の大学教育はまだ教員から学生への一方的な働きかけで足りていたが、今はそれではとてやめてゆけないということも誰の目にも明らかである。特に文芸学部においては、その専門領域の本質からして、もともと一方向

あの頃……

石黒紀子

学部報創刊50周年と聞き、歳月の過ぎに驚かされます。私が助手をしていた当時は学内が騒がしく、大学の考えを正しく学生に知らせるのが学部報の目的でしたが、御用新聞ならぬよ、腐心したものでした。しかし年四回の発行はかなり厳しく、毎四回苦悶して。ただ、先生方の授業外に触れる機会にもなり、専門の過ぎ、親しみやすいう学芸紙的なものを目指すと、いつか方向が定まりつつあり



特集 創刊50周年!

学部報が創刊されたのが1968(昭和43)年12月17日。それから50年を経て、第130号にまで至りました。年ごとに割り切れない数なのは、当初は年4回だったのが3回、2回と減ってきたからです。この調子ではそのうち廃刊というところにもなりかねません。学部報はいつか何のためにあるのか? この半世紀を振り返り、これらを見据えるために、学部報と関わりのあった、さまざまな方に聞いてみました。

学校からの手紙

中村統子

「お帰りのさい。今日、どうだった?」「お手紙はある?」と、娘が小学生の頃、帰宅後にそのような会話を繰り返していたことが思い出されました。中学生位までは、本人が困らない程度で、学校からの手紙はプールの上置かれていました。高校生になると、必要なのは郵送され、本人経由で渡れるのはPTAの広報紙位でした。

読む講義

中村 瞳

突然だが、私は大学の講義が好きすぎる。別に真面目な人ではないし、勉強が好きというわけでもない。それが、講義を面白く感じるのは、「大学教授」という職業の人達が面白く感じている。底が見えないほどの深い知識、その深い知識から生まれた、今までの気さきもなかった物の見方

「文芸学部報」の

活用する?

「文芸学部報」の活用は、事務職員であった私に受検生へ配布することを企画し、発行済みの文芸学部報の残部を配布した。その後、オープンパスの参加者数が増え、開

田淵善三

文芸学部報を

「文芸学部報」は、事務職員であった私に受検生へ配布することを企画し、発行済みの文芸学部報の残部を配布した。その後、オープンパスの参加者数が増え、開

バックナンバー拾い読み

中本恭平

「茶柱が立つと縁起が良い」とか、「黒猫が横切ると縁起が悪い」とか、その手のジンクスを、皆さんもいつかご存じだろう。ジンクスを気にする人は必要以上に「作ってしまっ」という転倒現象も

が学生の原稿を集めて学部報もどきの新聞を編集、発行しておられた。そのことが時代の流れの中でいつそ鮮明になってきている。当然、学部報への期待が高まるわけだが、不安がないわけでもない。私がまだ現役の教員であったとき、学部報に興味深い記事が出ていたので、それについてあつちやでコメントしたことがある。そのとき私は「読んでいる学生の多くが、それを手にして、誰か読んでいないことが判明して、衝撃を受けた」。

校正 畏るべし

柴田麻実子

編集なり印刷の知識が皆無だった私は、学部報の昭和55年7月号発行の第41号から担当となり、そしてその初号から大誤植の洗礼を受けた。

その頃は、原稿は手書きで、16字×10行の、ちよっと大きめの折紙用紙の学部報専用紙に、稿用紙に、執筆者の個性が滲み文字が綴られていました。そして印刷は活字を組み活版印刷の時代です。原稿にアカペンで改行や句読点の印を付ける「原稿整理」を終え、神保町駅にある新聞印刷所へ持ち込み、入稿からゲラのやり取り、校了まで5、6回足を運びました。

現場監督の方には、私たちの学部報は「趣味のもの」に映っていた

（卒業生・元助手）

現場監督の方には、私たちの学部報は「趣味のもの」に映っていた。うたが、優しすぎる素人の面倒を見ようとする。編集委員に学生を加えることも考えられる。

今あるいわゆる専門職の大半は近いうちにコンピューターに取って代わられるだろうと言われていた。手に職という言葉を死語にする日も近い。そのとき、そのとき、「もともと一方

「紙もの」の効用

吉澤弥生

二〇〇五年、大阪府立現代美術センター(当時) 展覧会の企画運営を、在阪八つのアートNPOが

心象点描

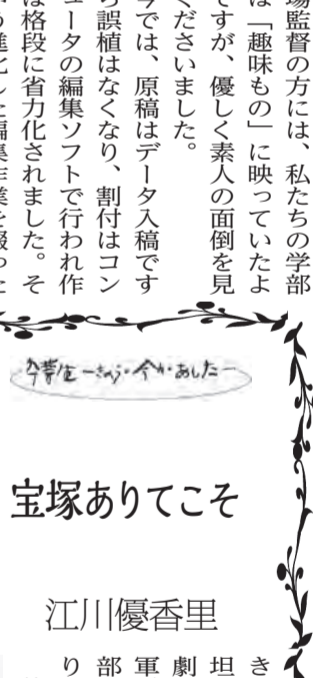
深津謙一郎

「茶柱が立つと縁起が良い」とか、「黒猫が横切ると縁起が悪い」とか、その手のジンクスを、皆さんもいつかご存じだろう。ジンクスを気にする人は必要以上に「作ってしまっ」という転倒現象も

つなぎ、むすぶ。

戸塚絵梨子

「紙もの」を定期発行場として、これまで執筆編集に携わってきた方々、ときに反応を寄せてくださる読者の方々には敬意を表したい。広報媒体がますます増えた今、学部報がどなたにも無理のない形で



宝塚ありてこそ
江川優香里

本館ロビーで何度か展示された、ひととき目をひく「宝塚歌劇展の華麗なポスター」に誰もが、度は足を止めるのではないだろうか。宝塚大好き歴八〇年近い私は、五歳で初めて「桃花春」、七歳で「ピノチオ」を観たことが思い出される。

宝塚ありてこそ

江川優香里

共立に入学した昭和二八年頃は、まだ世間は冷たく、「宝塚って女が男を演じる」と一笑いふさふさで。今、私は、資料整理で宝塚を受け持っている。宝塚永遠に!

現場監督の方には、私たちの学部報は「趣味のもの」に映っていた

（卒業生・元助手）

現場監督の方には、私たちの学部報は「趣味のもの」に映っていた。うたが、優しすぎる素人の面倒を見ようとする。編集委員に学生を加えることも考えられる。

「紙もの」の効用

吉澤弥生

二〇〇五年、大阪府立現代美術センター(当時) 展覧会の企画運営を、在阪八つのアートNPOが

心象点描

深津謙一郎

「茶柱が立つと縁起が良い」とか、「黒猫が横切ると縁起が悪い」とか、その手のジンクスを、皆さんもいつかご存じだろう。ジンクスを気にする人は必要以上に「作ってしまっ」という転倒現象も

つなぎ、むすぶ。

戸塚絵梨子

「紙もの」を定期発行場として、これまで執筆編集に携わってきた方々、ときに反応を寄せてくださる読者の方々には敬意を表したい。広報媒体がますます増えた今、学部報がどなたにも無理のない形で



ベルサイユのバラ 花組公演 (昭和49年) レコードジャケット

「ベルサイユのバラ」花組公演 (昭和49年) レコードジャケット

現場監督の方には、私たちの学部報は「趣味のもの」に映っていた

（卒業生・元助手）

現場監督の方には、私たちの学部報は「趣味のもの」に映っていた。うたが、優しすぎる素人の面倒を見ようとする。編集委員に学生を加えることも考えられる。

「紙もの」の効用

吉澤弥生

二〇〇五年、大阪府立現代美術センター(当時) 展覧会の企画運営を、在阪八つのアートNPOが

心象点描

深津謙一郎

「茶柱が立つと縁起が良い」とか、「黒猫が横切ると縁起が悪い」とか、その手のジンクスを、皆さんもいつかご存じだろう。ジンクスを気にする人は必要以上に「作ってしまっ」という転倒現象も

つなぎ、むすぶ。

戸塚絵梨子

「紙もの」を定期発行場として、これまで執筆編集に携わってきた方々、ときに反応を寄せてくださる読者の方々には敬意を表したい。広報媒体がますます増えた今、学部報がどなたにも無理のない形で

コースから

日本語日本文学

ここ最近起きた日文化の出来事、と聞いて真っ先に思い浮かぶことは、全員一緒なのではないでしょうか。今年の夏、助手は1421助手室に移動し、先生方は元々日文化研究室があった位置あたりに、各個人研究室を構える運びとなりました(遠藤先生は、今まで通りのお部屋です)。

(助手・齋藤)

英語英米文学

四年生は卒論の仕上げ、三年生は卒論計画書の大詰めを迎えている頃だと思えます。真剣に向かい合えるテーマや作品との出会いはとても重要です。また作品など二次資料の他に、研究論文などの二次資料の収集も充実した論文執筆には欠かせないものです。先行研究は作品と向かい合う「ことば」を提供し、頭の中でモヤモヤとしていたアイデアを言語化するヒントを与えてくれます。こうした論文との出会いは、作品との出会いに劣らず感動的です。

(教授・杉村)

フランス語フランス文学

夏休み中に、ひとりの卒業生が研究室を訪ねてきました。彼女は本コースを卒業後、絵を学ぶためにフランスに留学、現在もフランスにとどまり、画家として活躍しています。絵も何点か見せていただきましたが、フランス的な洗練と日本的な繊細さが融合した独特の美しさに魅了されました。

劇芸術

劇芸術では、芸術の秋に相応しく、「宝塚歌劇の現在展」と「戦後新劇と文学座展」の二つの展示を行いました。どちらの展示も公演ポスターを中心に、超お宝！なグッズもご用意。ポスターがずらりと並んだ様子は壮観で、伝統ある二つの劇団の歴史を感じました。ファンの方には胸のときめくものばかり、そうでない方にとっても多様な演劇の形に触れる機会になったと思います。また今

造形芸術

先日、山本先生が日本の仏教美術から西洋美術、建築史にいたるまで、あらゆる美術書(しかも読みやすい)を、助手室にご提供くださいました。私も気になって近

文芸教養

文芸教養コース「ブックマラソン」、熱心に取り組んでいる人にもそうでない人にもお知らせです。研究室の引越しなどに伴い、こ

文芸教養

また、助手室には美術書に加え、画集や過去の展覧会図録もあります。興味のある方は是非活用すべく、美術館へ出かけましょう。

(助手・鈴木)

文芸メディア

12月については提出の期間です。余裕を持って早々に、あるいは持てる力を出し切るためにギリギリまで追い込んでから、とクライマックスは人それぞれかと思いますが、教員としてはヒヤヒヤしたくないので、ぜひ前者でお願いします。

(教授・古澤)

編集後記

NHKテレビの特集番組で、健康寿命を延ばすためには何をすればよいかについて、高齢者のアンケート結果から判明したことを紹介していた。その第一位になったのが、運動でも食事でもなく、意外なことに、読書だった。もちろん、本を読めば、それだけで健康になるという話ではない。本から新たな知的刺激を受け、それが健康にもよい影響を及ぼすこと、祈るような思いで編纂に当たっている。(半沢)

学芸員課程

学芸員とは、博物館や美術館で各種資料の収集・保管、調査・研究、教育に携わる専門職員のことです。本学では、文芸学部、国際学部、家政学部の一部で取得することができ、学部の教育内とくにPR(Public Relations)を担っています。

具体的には、本紙「文芸学部報」をはじめ、大学や学部が発行する広報物の編集、および文芸学部在学や卒業生の皆さんの多様な活動を収集し、SNS等に発信しています。

広報委員会

皆さんの中には、大学内外の各方面で活躍している学生がいることでしょう。この機会に、自他を問わず、是非各コースの助手を通じて、広報委員会までお知らせください。これまで以上に積極的に広報してゆき

最後に、本紙の最後のページの小さな欄までお読みいただき、ありがとうございました。ご意見、ご感想、ご質問は「文芸学部報」に少しも興味を持っていただくと、本委員会にとっても嬉し

図書館委員会

図書館委員会の委員は、学部内にある様々な委員会の中でも、それほど忙しくはなかったはずですが、こしははるかにそうでもなく、業務の一つに、文芸学部での学びに

読みたい本がなければ、教員に相談してください。購入できなかったとしても、きっと別の方法をアドバイスしてもらえますよ。

(教授・岡田)

を理解してほしいと思います。

(教授・池上)

とと思います。

(教授・岡田)

編纂に当たっている。(半沢)